

一九〇五番

をみなへし 佐紀野さきののに生おふる 白しらつつじ 知らぬ
ことともて 言いはれし我わが背せ

一九〇六番

梅うめの花はな 我われは散ちらさじ あをによし 奈良ならなる人ひと
も 来きつつ見みるがね

一九〇七番

かくしあらば なにか植うゑけむ 山吹やまぶきの 止やむ時とき
もなく 恋こふらく思おもへば